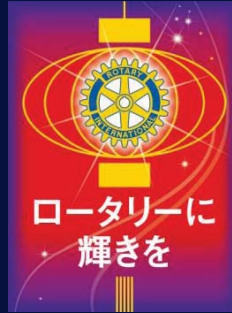


# WEEKLY NEWS

2014-2015年度 《23号》

## 週報 通算 2121回



第2640地区

### 和歌山東南

### ロータリークラブ

#### 本日の例会

12月21日(日)  
18:30~

例会会場：和歌山マリーナシティホテル ・坂口会長 点鐘 ・ロータリーソング：われ等和歌山東南ロータリー ・出席報告(例会委員会) ・会長挨拶 ・幹事報告 ・ニコニコ箱(寄付金)報告 ・委員会・同好会報告 ・坂口会長 閉会点鐘  
・行事：クリスマス親睦家族例会「親睦委員会」 ロータリーソング：手に手つないで

#### 先週例会報告

会場監督 赤在依美

ゲスト:和歌山市議会議員 井上直樹様、ビジター:和歌山南RC 窪田惇巳様

#### 会長挨拶

坂口 和男 会長

こんにちは。今日も寒いですね。爆弾低気圧の影響で風が強く、本当に寒いんです。この寒い中、例会に出席して頂きありがとうございます。今年もあとわずかになりましたが、一年を振り返り如何でしたか。良い年の人、また悪かった年の人も有るかと思えます。災害も多かったです。そして選挙です。市長選・知事選・衆議員選挙と続きました。衆議員選挙では、アベノミクスを止めるのか、継続するのかが争点でした。景気も上向きの状況ですので、やはり、安倍自民党の圧勝です。安倍さんの作戦勝ちだと思います。

本日ゲストの市議会議員の井上直樹先生、市議の皆様、そして市長様、もっと和歌山の観光に力を入れて頂きたいをお願いします。



#### 幹事報告

谷口 拓 幹事

- ① 和歌山県 障害福祉課施設福祉班から社会福祉法人作業所の「和歌山のすぐれものギフトカタログ」を事務局に持参いただきました。是非、会員の皆様にご活用して頂きたいとよろしくお願い致します。とのこと。今から、回覧いたします。
- ② NPO 法人 子どもセンターもよりお礼状が届いております。各テーブルに1部ずつ置いておりますので、お目通しください。
- ③ 日本ライトハウス 盲導犬訓練所より「2015年盲導犬カレンダー」発売の案内が届いております。カレンダー5000部の完売で約1頭分の盲導犬育成費用となるそうです。パンフレットを受付に置いておりますので、ご覧ください。
- ④ 土屋会員より皆様にスケジュールノートを頂戴しています。皆様のラックに入れてありますので、お持ち帰りください。
- ⑤ 本日例会終了後、定例理事会を開催いたします。役員・理事の皆様、よろしくお願い致します。



#### ニコニコ箱

南 美和子 副会長

坂口君・井上先生 本日卓話よろしくお願ひします。  
谷口君・井上様、本日は宜しくお願ひします。  
赤在君・お寒むうございませう。お身体ご自愛ください。  
保田君・ちょっと良い事がありました。  
土屋君・きびいしい寒さですね。おからだにご自愛ください。  
ご結婚記念日お祝ひ・中板君、溝落君、赤井君。



#### 出席報告

出席者 出席率

ニコニコ	米山記念 奨学会	ロータリー 財団	東南育英 会	45周年記念 BOX	紀南災害 義援BOX
累計 1,295,058	162,000	147,000	36,000	531,200	0

会員総数	50名	12/17	29名	59.18%
出席免除会員	3名	12/3	37名	78.72%

辻本君・台風なみの寒風が吹いています。寒いですね。  
保田君・少し良い事 ありました。  
土屋君・辻本委員長 本日よろしくお祈りします。



### 《 委員会報告 》



#### ■ 45周年準備委員会 辻本圭三委員長

本日、45周年準備小委員会を開催いたします。各委員長様、ご参加いただきますよう よろしくお祈りいたします。



#### ■ 親睦委員会 竹中昭美委員長

21日のクリスマス親睦家族例会には128名のご参加を頂いております。大勢のご参加、ありがとうございます。尚、欠席の連絡は19日までに事務局までお知らせ頂きますよう 宜しくお祈り致します。

## 「2015 紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会について」 和歌山市議会議員 井上直樹様



それでは、2015 紀の国わかやま国体・大会について、話をさせていただきます。来年、和歌山県で44年ぶりに2度目の国体が開催されます。市役所の正面にあるカウントダウンボードには、今日、国体開催まであと283日と表示されていますが、9月26日の開会式までが283日で、和歌山市では、会期前の9月6日に、早くも新体操競技が開催されますので、あと263日で、国体の競技が始まることになります。

#### 1. (1) 国体とは

公益財団法人日本体育協会、文部科学省、そして和歌山県の3者が主催者で、各競技会においては、その会場の市町村も主催者となります。

国体は、国民体育大会の略称で、都道府県持ち回りで毎年開催される国内最大の国民スポーツの祭典で、冬季大会と秋の本大会の総合得点の合計を競う、都道府県対抗方式で開催され、天皇杯（男女総合成績1位）と皇后杯（女子総合成績1位）の獲得を目指します。戦後の混乱期中、スポーツを通して国民に希望と勇気を与えるため、京都を中心とした京阪神地区で、昭和21年に第1回大会が開催されました。

今回の和歌山県での国体は、正式名称は第70回国民体育大会、愛称は「紀の国わかやま国体」と呼ばれ、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにすることを目的として、「躍動と歓喜、そして絆」をスローガンに開催されます。平成27年9月26日から10月6日までの11日間を会期として、正式競技が37競技、特別競技が1競技のあわせて38競技が、県内22市町村、県外4市で開催されます。例年、開会式には、天皇皇后両陛下がご臨席なされ、閉会式には、秋篠宮文仁親王同妃両殿下がご臨席なされています。

黒潮国体では、水泳の飛込は秋葉山県民プールで、ボートは紀の川漕艇（そうてい）場で、馬術は市営紀三井寺競馬場で行われ、シンクロナイズドスイミングとクレー射撃競技はありませんでした。県外4市のうち、クレー射撃の伊勢原市（県立伊勢原射撃場）だけが遠く離れています。

日本体育協会によると、これまでの国体のなかでもメインの開催地との距離が最も遠い部類に入るそうです。本来、県外開催は、まず隣県、次に同一ブロックで見つけるのが基本だそうですが、今回のようにブロック外での開催はほぼ例がないといわれています。

なぜか → 県内に国体基準を満たす射撃場がなく、伊勢原は射撃場が5面あり、2種目の競技で2面ずつとれるので、開催期間も短くすむ上に、設備や交通面も充実しメリットが大きいからだといわれています。（鉛弾の土壌汚染対策も実施済み）

そのほかにも公開競技が4競技、デモンストラレーションスポーツが27行事実施されます。

- ・公開競技とは、国体で実施される競技のうち、都道府県対抗の得点とならない競技
- ・デモンストラレーションスポーツとは、正式競技とは別に、広く親しまれているもの、又は今後普



及する見込みのある、県民なら誰でも参加できるスポーツです。

参加者は、県下で選手・監督あわして、約 22,000 人といわれ、本市にはそのうち、約 9,000 人が訪れると予想されています。

## (2) 黒潮国体

そして、黒潮国体ですが、大阪万博の翌年に開催されています。前回、昭和 46 年の国体は、「黒潮国体」と呼ばれ、和歌山市では、開閉会式以外に陸上競技をはじめとし、12 競技が行われ、9,559 人の参加がありました。

- ・夏季大会（3 競技） 関係者宿泊延べ人数 19,573 人（実数 4,375 人）
- ・秋季大会（9 競技） 関係者宿泊延べ人数 30,812 人（実数 9,006 人）

和歌山県は、男女総合成績 1 位に与えられる天皇杯を獲得し（2 位は大阪府）、女子総合成績でも 2 位（1 位は大阪府）でした。

- ・1954 年(S29)の北海道での国体以降、1993 年(H5)の東四国国体(香川・徳島)以外ひとつの都道府県で開催。
- ・1964 年(S39)の新潟国体以降、2002 年(H14)の高知国体で東京都が天皇杯を獲得した以外は、開催地都道府県が天皇杯を獲得している。
- ・皇后杯も、1978 年(S53)の長野国体以降、高知県を除き開催地都道府県が獲得
- ・開催県はどうしても天皇杯を獲得したい。  
→ 3 年前の山口国体での副知事発言。ちなみに 1963 年(S38)の山口国体は 2 位旗振り競技(柔道やレスリング)は開催県を有利にしよう。  
やし(ずる)をしてでも 1 位をとる。

昨年は、東京都で国体が開催され、今年は長崎で開催されました。その後は、岩手県、愛媛県、福井県、茨城県、鹿児島県、三重県、栃木県、佐賀県、滋賀県と続いていきます。これは、昭和 63 年の第 43 回京都国体から二巡目に入り、西日本→中日本→東日本の順で開催されています。

昨年の東京国体の順位ですが、総合成績(天皇杯)が東京都で 3486 点、2 位の大阪府が 1839.5 点で、今年開催する長崎県が 10 位で 1219.5 点、和歌山県が 990.5 点で、第 18 位でした。今年の長崎国体での和歌山県の成績は、男女総合成績で 1063 点、第 15 位と順位を 3 つ上げました。

国体開催自体にも、開催都道府県の勝利至上主義やジプシー選手の問題、また、大会規模の肥大化などの様々な問題が起きてきたため、平成 15 年に「国体改革 2003」として、大会運営の簡素化・効率化が求められ、2006 年の兵庫国体からは、夏季・秋季大会開催の一本化が実施され、また、大会規模の適正化として、参加総数の 15 パーセント程度の削減を図るなど改革が進められ、開催地選定のあり方についても、将来的には広域開催(中心的な開催地とそれを支える都道府県)を視野に入れた検討を行っています。

前回の黒潮国体では、紀三井寺運動公園や国体道路など、多くの施設や道路が整備されましたが、今回も、和歌山県では、国体関連の施設として、和歌山市内の紀三井寺公園や秋葉山公園県民水泳場等を整備し、和歌山市でも国体開催に向けて、つつじが丘にテニスコートを整備しました。このように国体・大会での和歌山県への経済波及効果は、約 641 億円と算出されています。

### 2. (1) 和歌山市での開催競技は

和歌山市では、開閉会式以外に、14 競技 16 種目 1 行事と多くの競技が開催されます。

開・閉会式は和歌山県が行いますが、競技は市町村が行います。

青色の競技が国体の正式競技で 13 競技 15 種目、黄色の競技が特別競技で 1 競技、紫色の競技が全国障害者スポーツ大会の正式競技で 4 競技、ここにはありませんが、オープン競技として、車いすテニスと卓球バレーの 2 競技が開催されます。

また、緑色の競技が国体のデモンストラションスポーツで、磯ノ浦海水浴場でサーフィンが開催されます。これは、県民ならだれでも参加できるスポーツです。このように本市では数多くの競技が開催されます。また、和歌山市では、会期前の 9 月 6 日から 13 日までの 8 日間に体操・新体操、競泳・水球、セーリングの 3 競技 5 種目が、開会式前の 9 月 22 日から開会式当日の 26 日までの 5 日間に、バスケットボール競技が開催されます。

9 月 26 日の開会式後、10 月 6 日の閉会式までの 11 日間に、10 競技が開催されることになり、特に会期の前半に 8 競技が集中して実施されることとなります(後半は陸上と柔道のみ)。

つまり、和歌山市では、9 月 6 日から 10 月 6 日までの 1 か月間に、23 日間国体競技が開催されることとなります。このパンフレットを見ていただいておりますように、本市での競技会場は、市内あちこちに分散されているのがわかるかと思えます。一昨年開催されました岐阜市では、岐阜メモリアルセンターという三方を道路で囲まれた広大な敷地の中に、競技場、補助競技場、水泳場、ドーム 2 か所、武道館、テニス場、野球場など集約されていたので、効率的に運営されていました。

市民の方々には、全国から訪れるトップアスリートの競技を間近に観戦できる絶好の機会です。先ほどの和歌山市の開催方針にもありましたように、国体を契機に市民のスポーツへの関心を高め、市民一

人ひとりが生涯にわたりスポーツに親しむことにより、ゆとりと豊かさを実感できる生涯スポーツ社会の実現につながっていくと考えています。

和歌山市実行委員会では、紀三井寺公園陸上競技場や和歌山ビッグホエールなどで開催する競技会の運営やおもてなしが主な仕事となります。国体開催に向けて、これまでは、カウントダウンボードの設置やきいちゃん電車やきいちゃんバス、着ぐるみきいちゃんの派遣など主に市民の方々に国体の開催を周知する広報、また、県や各競技団体等との連絡調整、先催市への視察などを実施してきました。きいちゃん着ぐるみ派遣については、皆さんの地元のイベントなどにも派遣させていただきます。のぼり旗だけでも、和歌山県が県下で、約1,400か所、和歌山市でも、約130か所、約500枚ののぼり旗を設置しています。これからは、さらに、選手・監督への手作り記念品の制作や運営ボランティアの募集や花いっぱい運動、本市所有の競技会場の整備や競技会場の会場設計、市職員の動員計画など国体成功に向けて取り組んでいきます。

国体開催時には、競技会場を花いっぱいにし、さらには、市内の小中学校の児童生徒が制作した47都道府県の応援のぼり旗で選手・監督をお迎えします。また、国体開催を通じて、市民のスポーツへの関心を高め、スポーツを通じた交流促進や生きがいがいづくりにつなげていく。現在、平成23年1月28日に開催された実行委員会第1回総会で決定した第70回国民体育大会和歌山市開催方針の実施目標にあります「市民協働による大会」を実現するため、喜びと感動を共有できる魅力ある大会の開催に向け、市民の参加意識の高揚を図り、市民総参加のもと一丸となり大会を盛り上げていくとともに、市民・関係団体・行政が綿密な連携を図りながら大会成功に向けて万全を期する方針のもと印刷物やHP・テレビ・ラジオなどの広報媒体、また、きいちゃん着ぐるみなどのイベントや電車・バス・カウントダウンボードなどの工作物による広報活動を積極的に行っています。

国体を成功させるには、開催に向けて市民の機運を高めていくことが不可欠ですので、それには、まず市職員が機運を高め、ボランティアの市民の方々とともに和歌山市全体でおもてなしの心を持って、本市に来られる方をお迎えすることが大事であると考えます。

開催時に、本市のすばらしさをアピールし、観光を活性化させるチャンスでもありますので、会場やアクセス道路の整備など、受入準備に万全を期し、和歌山城をはじめとした観光資源のさらなる魅力向上にも取り組んでいかなければなりません。特に、和歌山市中心部には、観光スポットが少ないことから、どこからでも見える和歌山城に来られる方が多いと思われる。その方々に、まずは市職員が率先して挨拶。声かけをする。(彦根城では、朝、草抜きや掃除している人たちが、観光客を見ると、作業を止めて「おはようございます」「ありがとうございました」と声をかけている。)

### 3. 紀の国わかやま大会とは

また、国体終了後の10月24日から26日までの3日間を会期として、第15回全国障害者スポーツ大会、愛称「紀の国わかやま大会」が開催されます。

24日(土)、紀三井寺公園陸上競技場で開会式が開催され、例年皇太子殿下がご臨席なされます。

26日(月)の閉会式には、例年高円宮妃殿下がご臨席なされています。

全国障害者スポーツ大会は、平成12年まで別々に開催されていた全国身体障害者スポーツ大会と全国的障害者スポーツ大会を統合して、平成13年に第1回大会が開催されて以来、毎年国体終了後に開催されています。これは、中央の主催者が、厚生労働省と公益財団法人日本障害者スポーツ協会の2者で、開催地の主催者としては、県と開催地市町(和歌山市、海南市、田辺市、紀の川市、岩出市、日高川町、上富田町)が連携しながら運営を進めていきます。

和歌山県下で、3,441人の選手、約2,000人の役員の参加が想定されており、本市には、選手だけで、陸上1,050人、水泳310人、卓球315人、車椅子バスケットボール84人の1,759人の参加が想定されています。予算面は和歌山県が、開催地市町は人を出すとされています。

紀の国わかやま大会は、障害者が競技等を通じてスポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加の促進に寄与することを目的に開催されます。県内7市町で、正式競技が13競技、オープン競技が2競技実施され、和歌山市では、開閉会式以外に、正式競技として、陸上競技・水泳・卓球・車椅子バスケットボールの4競技、オープン競技として、車いすテニス・卓球バレーの2競技が開催されます。障害のある選手の生き活きとした姿が多くの人々に力と感動を与え、すべての人に何事にもチャレンジしていく勇気を育みます。特に子供たちに見てもらいたい。

競技の内容も、陸上競技においても障害者スポーツ独自の競技があり

・ジャベリックスロー ・ピーンバッグ投 ・スラローム

### 4. 今後の予定

国体・大会の成功のためには、選手や大会関係者、そして県や市だけでなく、ボランティアや観覧者など多くの市民の皆様の協力が必要です。花を育てる花いっぱい運動や競技会場等でのボランティア活動、街をきれいにするクリーンアップ運動、そして、選手・監督への手作り記念品の制作など、市民総参加で盛り上げ、誰もが記憶に残る忘れられない国体・大会を目指していきます。